

京 都 大 学

國文學論叢

第 2 号

『我身にたどる姫君』卷六の位置付け……………金光 桂子 (二)

『開卷一笑』小考……………川上 陽介 (一五)

大君から浮舟への転換……………辛 有美 (三四)

―浮舟の「形代性」と「反形代性」―

「作文管見」の背景……………永井 太郎 (五〇)

キリンタン資料の

拗音および連母音を表す「ぢ」をめぐって……………岸本 恵美 (一)

京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室

〈編集後記〉

「国文学論叢」第二号をお届けします。

創刊号発行以後、各方面の先生方から、いろいろと貴重なご教示を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。頂戴いたしましたご助言は、今後の紙面の向上に役立てて参りたいと存じます。

この雑誌が、号を重ねることに、大学院生にとって優れた研鑽の場となつてゆきますよう、一同努力する所存でございます。

今後とも宜しくご指導ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

(文責・川口)

平成十一年六月二十五日 印刷
平成十一年六月三十日 発行

編集発行者

〒六〇六一八五〇一

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科国語学国

文学研究室「国文学論叢」編集部

電話 〇七五―七五三―二八二四

印刷者

京都市下京区室町通り仏光寺上る

亜細亜印刷株式会社

※表紙題字『易林本節用集』より

(京都大学文学部蔵慶長板)